# 駿河和染

# Suruga Hand-Dyeing

## ＊おもな製品

テーブルセンター、のれん、壁掛け、風呂敷、バッグ、財布など。

## ＊製品の特長

それぞれの職人さんが染色方法に工夫を凝らして、いろいろな染物をつくっていることと、藍色と白色の色合いがはっきりしていることです。

## ＊つくりかた

①藍建て　②型彫り　③紗張り・型付け　④型送り・ひき粉まき　⑤色差し・枯らし　⑥中干し（かため）　⑦ふ　せ　⑧本染め　⑨水　元　⑩乾　燥

## ＊おもな材料

生地（綿布、麻布、絹など）、すくも、防染糊など。

## ＊おもに使う道具

刀、ヘラ、刷毛、筒、張木、伸子など。

## ＊最もむずかしいところ

**すくも（乾燥させた藍の葉）の発酵具合を確かめながら、ちょうど良い色合いの染料をつくることと、染色が終わるまで落ちない丈夫な防染糊をつくることです。**

## ＊静岡でできるわけ

現在も紺屋（染物屋）町という地名が残っているように、静岡では昔から染物が盛んで、優秀な染色技術を持った職人さんが大勢いるからです。

おもな染色方法には、「型染め」（型紙を使って防染糊を布に置く方法）と、「筒染め」（筒に入れた防染糊で模様を描く方法）があります。

### ことば（業界の専門用語）

**「風入れ」**：生地を藍がめから出した後、生地が均等に染まるよう空気にさらすことです。

**「かため」**：防染糊を丈夫にするための作業をいいます。

**「おろす」**：生地を藍がめに入れることです。

| | |
|---|---|
| 県内事業所数 | 11所（平成19年） |
| 県内年間出荷額 | 90百万円（平成19年） |

資料：静岡県経済産業部商工業局（平成20年度調べ）

## ＊組　合

静岡市染色業組合
焼津市坂本320-4　電話（054）629-9555

## ～「型染め」（型紙を使って行う染色方法）～

①**藍建て**（乾燥させた藍の葉にアルカリ水などを入れ発酵させ、染料をつくります。）

②**型彫り**（柿渋を塗った和紙に下絵を貼り付け、刀で彫ります。）

③**紗張り・型付け**（型紙に紗を貼り付けたら、生地に置き、防染糊をヘラでこすりつけます。）

④**型送り・ひき粉まき**（模様がずれないように型付けを繰り返しながら、糊を保護するためのひき粉を蒔きます。）

⑤**色差し・枯らし**（墨や顔料などで模様を強調し、一旦水に浸したら水から上げ、色がしっかり着くまで待ちます。）

⑥**中干し（かため）**（本染めに備えて糊を丈夫にするため、生地を藍がめに浸したら乾燥させます。）

⑦**ふ　せ**（生地が乾いたら、色に変化をつけたい部分に防染糊でフタをして、糊を保護するためのひき粉を蒔きます。）

⑧**本染め**（生地を藍がめに浸したら、空気にさらして発色を待ちます。）

⑨**水　元**（染めあがった生地を一晩水に浸したら、刷毛で糊などをきれいに洗い落とします。）

⑩**乾　燥**（最後に天日で乾かせば完成です。現在、駿河和染はいろいろな製品に加工され販売されています。）